



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

今月の素朴な疑問

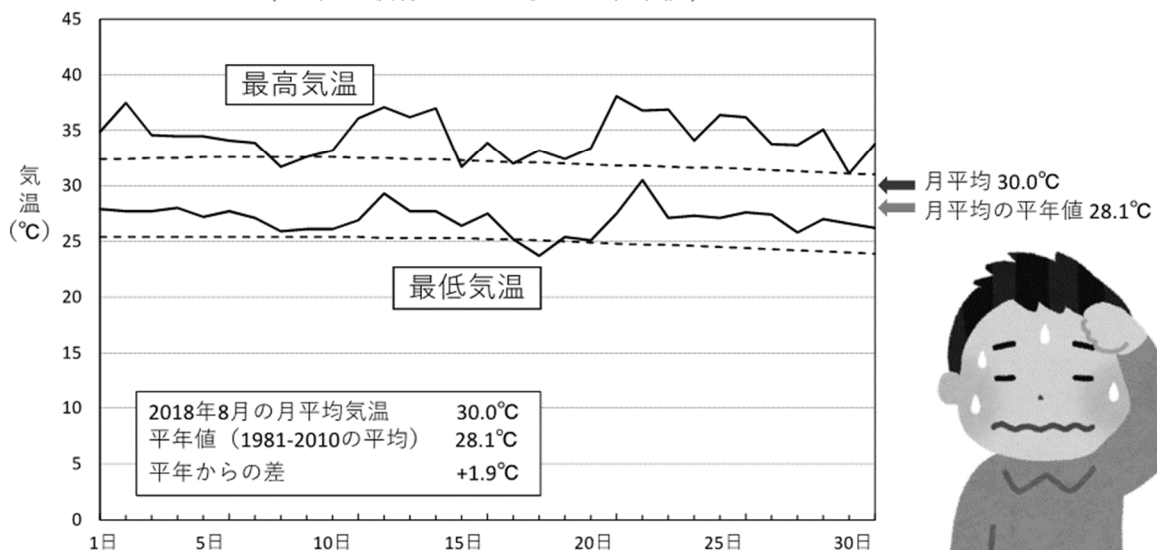
平均気温が2℃上がるとどうなる？

地球温暖化のため、地球全体の気温が上昇しています。このため、すでに様々な影響が出始めていますが、よく地球温暖化による上昇を2℃以内あるいは1.5℃以内に抑えるなどということを目にすると思います。2℃といっても実感がわからないかもしれません。そこで2018年の夏を例にとって見てみることにします。

2℃の違いとはどのようなものか、1日の中でも気温は数度の幅で変化し、日々の変化も天気によっては前日に比べて10℃程度高くなったり低くなったりということは珍しくありません。しかし、気温が高い時も低い時もならした平均ということになると話が違います。

2年前の2018年の夏が暑かったことを記憶されている方も多いと思います。図は福岡の2018年8月の最高・最低気温を並べたものです。この年の8月には35℃以上の日(猛暑日)が11日(平年は3.8日。平年とは1981年から2010年の平均)も現れました。また、日最低気温が25℃以上の日(それが夜であれば熱帯夜)は30日も現れ「災害級の暑さ」とまで言われました。福岡市の2018年の熱中症による救急搬送者数は821名で、涼しかった2014年の搬送者数258名と比べ3倍以上に増加しています(福岡市熱中症情報ホームページより)。

福岡の2018年8月の最高・最低気温
(上下の破線はそれぞれの平年値)



しかし、グラフを見るとわかるように、1か月間全て暑いわけではなく、中には平年並や平年を下回る気温の日もあるため、それらを1か月間ならずと月平均気温の平年との差は+1.9℃となります。

このことから、仮に月平均気温が平年の値から2℃上昇すると2018年8月のような暑い8月がごく普通に現れるということになります。また、今の例は8月ですが、年平均気温が2℃上昇すると年を通じて、その季節としては気温の高い日が現れやすくなります。1日内的変化や日々の変動では2℃というのは一見小さいですが、月や年で平均した値が2℃というのは大きな影響がある値であることが分かります。

地球温暖化の主な原因と考えられている温室効果ガスの排出が現状のまま続いたとすれば、福岡の年平均気温は今世紀末には20世紀末より4℃以上上昇すると予測されています。これは鹿児島県奄美市の平均気温の平年値に近い値に相当します。

たかが2℃と侮らず、奇跡の惑星地球の環境を人類の都合で変化させるのではなく、環境を守って現在の小学生やその次の世代に引き継ぐことは、大人世代の責任でもあります。

ご意見をお待ちしています

お気づきの点があればご意見をお寄せください。また、素朴な疑問や質問を募集します。電子メール、Fax、あるいは郵便(はがき、封書)で下の宛先までお送りください。お待ちしております。

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区気象台防災調査課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

Fax：092-725-3163

e-mail：fukuoka_bousaichousa●met.kishou.go.jp

●マークは半角@に置き換えてください

次回の発行は4月の予定です。